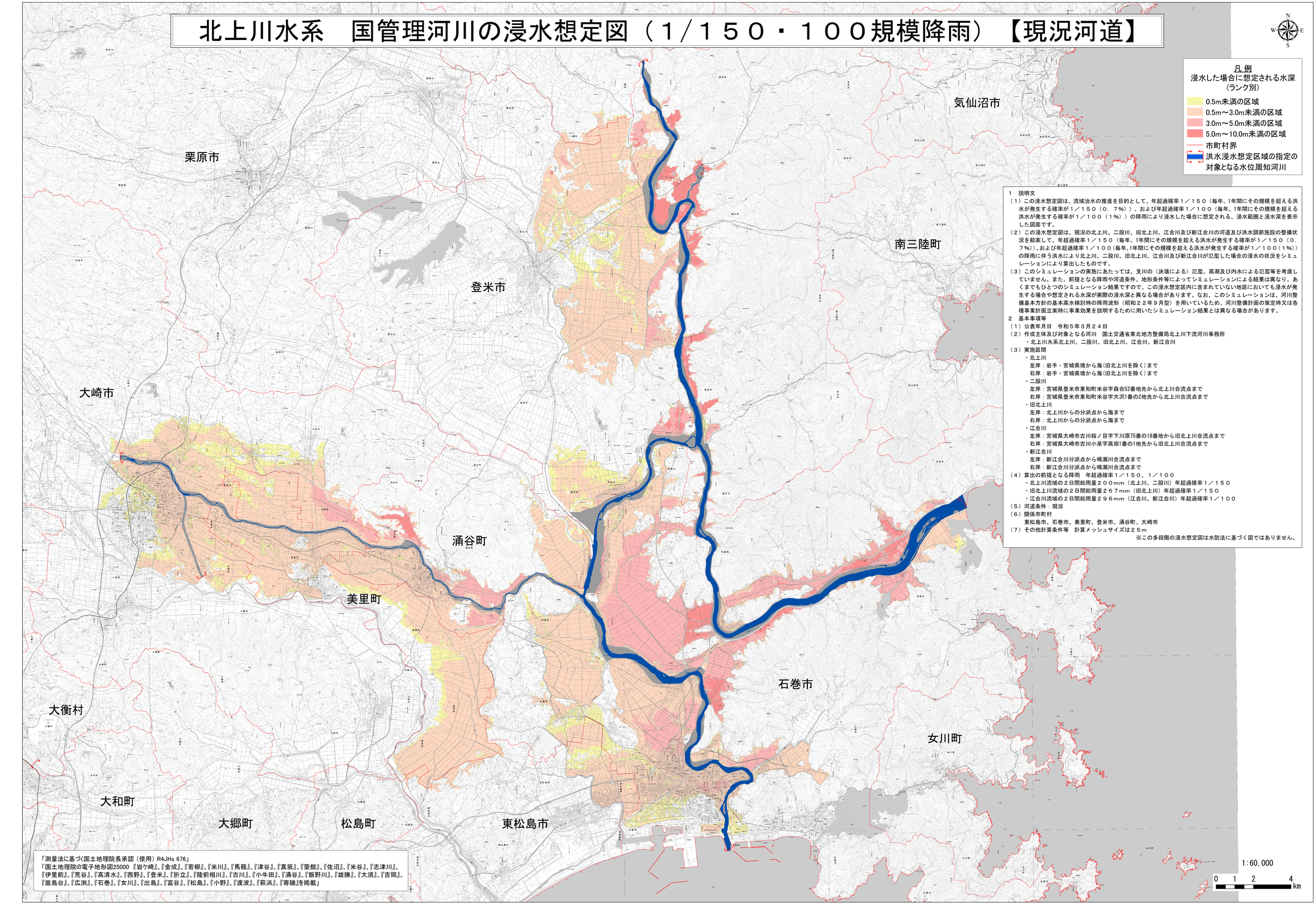
北上川水系　国管理河川の浸水想定図（１／１５０・１００規模降雨）【現況河道】



凡例
浸水した場合に想定される水深（ランク別）
- 0.5m未満の区域
- 0.5m～3.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 市町村界
- 洪水浸水想定区域の指定の対象となる水位周知河川

１　説明文

（１）この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、年超過確率１／１５０（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１５０（０．７％））、および年超過確率１／１００（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１００（１％））の降雨により浸水した場合に想定される、浸水範囲と浸水深を表示した図面です。

（２）この浸水想定図は、現況の北上川、二股川、旧北上川、江合川及び新江合川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率１／１５０（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１５０（０．７％））、および年超過確率１／１００（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１００（１％））の降雨に伴う洪水により北上川、二股川、旧北上川、江合川及び新江合川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。

（３）このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションによる結果は異なり、あくまでもひとつのシミュレーション結果ですので、この浸水想定区内に含まれていない地区においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（昭和２２年９月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

２　基本事項等

（１）公表年月日　令和５年３月２４日

（２）作成主体及び対象となる河川　国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所
- 北上川水系北上川、二股川、旧北上川、江合川、新江合川

（３）実施区間
- 北上川
  - 左岸：岩手・宮城県境から海（旧北上川を除く）まで
  - 右岸：岩手・宮城県境から海（旧北上川を除く）まで
- 二股川
  - 左岸：宮城県登米市東和町米谷字森合52番地先から北上川合流点まで
  - 右岸：宮城県登米市東和町米谷字大沢1番の2地先から北上川合流点まで
- 旧北上川
  - 左岸：北上川からの分派点から海まで
  - 右岸：北上川からの分派点から海まで
- 江合川
  - 左岸：宮城県大崎市古川桜ノ目字下川原75番の18番地から旧北上川合流点まで
  - 右岸：宮城県大崎市古川小泉字高畑1番の1地先から旧北上川合流点まで
- 新江合川
  - 左岸：新江合川分派点から鳴瀬川合流点まで
  - 右岸：新江合川分派点から鳴瀬川合流点まで

（４）算出の前提となる降雨　年超過確率１／１５０、１／１００
- 北上川流域の２日間総雨量２００mm（北上川、二股川）年超過確率１／１５０
- 旧北上川流域の２日間総雨量２６７mm（旧北上川）年超過確率１／１５０
- 江合川流域の２日間総雨量２９６mm（江合川、新江合川）年超過確率１／１００

（５）河道条件：現況

（６）関係市町村
東松島市、石巻市、美里町、登米市、涌谷町、大崎市

（７）その他計算条件等　計算メッシュサイズは２５m

※この多段階の浸水想定図は水防法に基づく図ではありません。

「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R4JHs 676」
「国土地理院の電子地形図25000 『岩ケ崎』、『金成』、『若柳』、『米川』、『馬籠』、『津谷』、『真坂』、『築館』、『佐沼』、『米谷』、『志津川』、『伊里前』、『荒谷』、『高清水』、『西野』、『登米』、『折立』、『陸前相川』、『古川』、『小牛田』、『涌谷』、『飯野川』、『雄勝』、『大須』、『吉岡』、『鹿島台』、『広渕』、『石巻』、『女川』、『出島』、『富谷』、『松島』、『小野』、『渡波』、『萩浜』、『寄磯』を掲載」

1:60,000
0 1 2 4 km